（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 10 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	19,314円	氏名	湖東 秀隆

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 11 月 12 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

申請額内訳	調査研究費	19,314円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
2	有害鳥獣に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
5	幹線道路改修(落石)に関する事項	於呂～大平～於呂	調査	20	740					
7	幹線道路整備に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
8	都市計画道路に関する事項	於呂～貴布祢～於呂	調査	14	518					浜名区役所
9	地域功労に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
10	県による農地整備事業に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
11	県による農地整備事業に関する事項	於呂～大平～於呂	調査	20	740					
11	引佐地区住民と伝統文化に関する事項	於呂～引佐～於呂	調査	34	1,258					
15	小河川改修に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
16	SDG's に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
20	部活動の地域展開について	於呂～中央～元城～於呂	調査	37	1,369					教育委員会
21	道路整備計画について	於呂～貴布祢～元城～於呂	調査	36	1,332					浜名区役所・本庁
23	地域商業活性化について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
24	大平地区農業基盤整備事業について	於呂～中央～元城～於呂	調査	37	1,369					
27	ふるさと納税について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
29	障害者自立支援施策について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
合計				522	19,314					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 11 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	12,247円	氏名	湖東 秀隆

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 12 月 19 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	12,247円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
3	地域イベントに関する事項	於呂～二俣～於呂	調査	8	296					
4	障害福祉に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
5	兼農地整備事業に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
6	スポーツ施設整備に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
9	地域イベントに関する事項	於呂～引佐～於呂	調査	32	1,184					
11	不登校児童に関する事項	於呂～中央～元城～於呂	調査	37	1,369					
16	地域イベントに関する事項	於呂～犬居～於呂	調査	38	1,406					
17	地域商業に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
19	障害福祉に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
25	障害福祉に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
合計				331	12,247					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

(5)

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 11 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

申請額	10,360円

氏名	太田一科実保

令和 7 年 12 月 26 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

申請額内訳

調査研究費	7,400円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	2,960円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
4	井伊谷小学校教職員との懇談	山東～引佐町井伊谷～山東	調査	38	1,406					
5	西部農林中山間地域総合事業について聞き取り	山東～中央～山東	調査	42	1,554					
7	創造浜松だよりについて会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
11	光ファイバー整備状況について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
14	意見書について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
21	公共施設管理について会派勉強会	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
25	盛土対策について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
合計				280	10,360					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

103

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 12 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	10,360円	氏名	太田 利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 12 月 28 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	7,400円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	2,960円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
1	土地利用計画について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
11	船明浸水対策補正について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
12	鳥獣被害対策について会派勉強会	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
15	森林クレジットについて聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
19	創造浜松だよりについて会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
25	観光協会への補助金について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
26	意見書について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
合計				280	10,360					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

104

(7)

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 12 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	8,362円	氏名	瀬棄 秀隆

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 8 年 1 月 23 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	8,362円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
1	多目的広場設置についての協議	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
3	幹線道路改修に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					R152関係
11	障がい者福祉に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
15	都市計画道路に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
18	市所有地の山林管理について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
22	障がい児の対応について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
29	あらたまの湯・地場産品物産館について	於呂～灰木～於呂	調査	10	370					灰木地区農業団体有志
合計				226	8,362					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

8

（様式６）

旅　費　支　払　証　明　書

出張年月日	令和８年　２月　９日　～　令和８年　２月１０日
出張先（目的）	川崎市、前橋市

出張者氏名	森田賢児	太田利実保	関イチロー	湖東秀隆
	遠山将吾			

旅　費　額　内　訳

項　目	金　額	備　考
交通費	１３７，２００円	詳細は下記および別紙添付 (9)
日当	１５，０００円	@ 1,500円×5人×2日 (11)
宿泊費	７４，０００円	@ 14,800円×5人×1泊 (10)
	円	
	円	
合　計	２２６，２００円	

金　額		百	拾	万	千	百	拾	円
			2	2	6	2	0	0

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和８年　　２月　２７日

会　派　名　　浜松市議会創造[redacted]民主党浜松

代　表　者　　森田　賢児　[redacted]

〈詳細〉

（様式６）

<別紙　領収書添付欄　1>

(9)'

領収証　RECEIPT

令和8年2月9日

浜松市議会　会派創造浜松・国民民主党浜松　様

下記の金額、正に領収しました。

¥137,200-

但　JR代・旅行取扱手数料



（株）東海トラベル[redacted]

〒432-8036　静岡県浜松市中央区東伊場2-9-16

TEL　053-456-3550

FAX　053-454-3374

登録番号：T7080401003[redacted]

担当[redacted]

御　見　積　書

浜松市議会　会派創造浜松・国民民主党浜松　様　　令和7年12月16日

ご出発日　　2026年　2月　09日　（月）

ご帰着日　　2026年　2月　10日　（火）

行先／主要観光地

行政視察

	項目	単価	税金	数	金額	摘要
共通経費					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
個人経費					0	
					0	
	JR代	26,340	込	5	131,700	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
	旅行取扱手数料	1,100	込	5	5,500	
					0	
	お一人当り合計（算出人員1／　5　名）@				27,440	総計　137,200

（ご案内）1．当社は天災地変、国家騒乱その他不可抗力の事由、お客様の公序良俗に反する行為、逸脱、宿泊など当社以外の事由による損害
損失は責任を負いません。

2．この見積書は提出日を基準としておりますので、各種交通機関などの運賃、料金その他の料金改正などにより変更される場合があり

◎お　取　消　料

出発の30日前以降3日前まで　　旅行代金の　20%

出発日の前々日及び前日お一人　　旅行代金の　30%

旅行開始日当日　　旅行代金の　50%

旅行開始後及び無連絡不参加お一人　　旅費全額

（注）ご旅行中お客様自身或いは見積品に対して蒙られた損害の内、それが天災・火災・陸海空における不慮の災害・政府公共団体の指令・改変・ストライキ・騒動・空襲・戦争・流行病蔓延・税関規則など不可抗力の事由による場合、盗難・旅行詐欺・疾病・傷害など当社の責任外の事故による場合、及びお客様が故意若しくは公序良俗に反する行為を行った為に生じた場合については、当社はその損害賠償の責任を負いかねますので予めご了承下さい。

（株）東海トラベル
〒432－8036
静岡県浜松市中区東伊場2－9－16
TEL:053－456－3550
FAX:053－454－3374
総合旅行業務取扱管理者:
担当:

（様式８）

令和７年１２月１２日

会派名　　浜松市議会創造浜松・国民民主党浜松
代表者　　会長　森田　賢児　　様

[redacted]

会派名　　浜松市議会創造浜松・国民民主党浜松
氏　名　　会長　森田　賢児　[redacted]

出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

1　出張者
　森田賢児　　太田利実保　　関イチロー　　湖東秀隆　　遠山将吾

2　期間及び出張先
　２月　９日（月）　川崎市
　　１０日（火）　前橋市

3　目的
　川崎市　川崎臨海部しごとスタイルプログラム
　前橋市　めぶく。プラットフォーム前橋について
　　～地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進業議会～

視察依頼書送付願

令和7年　12月12日

浜松市議会議長　様

[redacted]

会　派　名　　浜松市議会創造浜松・国民民主党浜松
代表者氏名　　会長　森田　賢児　[redacted]

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

視察行程表

◆視察日程　令和８年２月９日（月）～１０日（火）
◆視 察 先　川崎市、前橋市
◆視察議員　森田賢児議員、太田利実保議員、関イチロー議員、湖東秀隆議員、遠山将吾議員
※集合…１０：００までに改札口

２月９日（月）	ひかり 590　JR 横浜線　東神奈川行き 浜松 10：17++++++11：24 新横浜 11：29++++++1：37 東神奈川 JR 京浜東北・根岸線快速　徒歩１０分 11：41++++++11：51 川崎・・・川崎市役所　※昼食 **《川崎市視察》13:30～15：00** **調査項目** **・川崎臨海部しごとスタイルプログラム** 徒歩１０分　上野東京ライン・高崎行き　とき 329　新潟行き 川崎市役所・・・川崎 15：40++++++15：58 東京 16：16++++++ 両毛線　徒歩　７分 17：07 高崎 17：22++++++17：36 前橋・・・ホテル 《前橋駅周辺・泊》	**川崎市議会事務局** **政策調査課** **担当者：　武田　様** **TEL:044-200-3376** **《宿泊先》** **前橋ホテル** **TEL:027-220-1818**
２月10日（火）	タクシー５分（自費） ホテル・・・9：45 前橋市役所 **《前橋市視察》10:00～11：30** **調査項目** **・めぶく。プラットフォーム前橋について** **～地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進業議会～** ※昼食 タクシー５分（自費）　JR 両毛線　高崎行き　とき 320　東京行き 前橋市役所・・・前橋 13：05++++++13：20 高崎 13：41++++++ ひかり 517 14：28 東京 15：03++++++16：27 浜松	**前橋市議会事務局** **議事課** **担当者：　田中　様** **TEL:027-898-5923**

（様式10）

令和８年　２月２６日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会創造浜松・國民民主党浜松
代表者　森田　賢児

報　告　書

出張年月日	令和８年　２月　９日（月）～　令和８年　２月１０日（火）
出　張　先	川崎市、前橋市
出張の理由	川崎市　　川崎臨海部しごとスタイルプログラム 前橋市　　めぶく。プラットフォーム前橋について ～地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進業議会～
出　張　者 氏　名　印	森田賢児 [redacted]　太田利実保 [redacted] 関イチロー [redacted]　湖東秀隆 [redacted]　遠山将吾 [redacted]
（出張の顛末）	
（備考）	

行政視察報告書

報告者：森田 賢児



日　　時：令和８年２月９日
場　　所：神奈川県川崎市
視察事項：川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業について
出席者　：森田賢児　太田利実保　遠山将吾
　　湖東秀隆　関イチロー

・あくまで、市民に知られていない・関心をもたれていない課題意識からなるPR事業。それに付随する形で、人材育成・地域定着が行われている

・予算は200万円。当局の事務方が実質１人で回している。最初の３年間が試行期間。現在５年目である。

・実際に就職したのは５年間で数名程度に留まる。

・教育委員会も関わっているが、この事業に対する理解や姿勢は、教職員間で温度差がある。また教育現場の負担にならぬよう留意している。

・臨海部には2800社もの企業が集積しており、そこで働く人は71000人に上る。他方、当該事業に参画する企業数は令和７年度までに21社である。

<考察>

まず、市民の関心が乏しいとのことであるが、企業と地域の関りがどの程度なのかも気になるところである。後に調べたところ、少なからず中小企業もあるとのことだが、やはり大企業の集積が顕著である。地域や行政との関りが希薄だとすれば、当該エリアはあくまで「働くエリア」としてすみ分けられているのも一因ではないかと推察する。とは言えども、仕事のないところに人は来ないのは間違いなく、これまで川崎市の発展を牽引してきた当該エリアは今後も重要拠点であることに変わりない。

立地的条件や価値観の多様化など、若者の職業の選択肢は多岐に渡ると思うが、技術系・工業系が再注目されることになればチャンスが再度訪れることも考えられる。現に、AI等の進展で、ホワイトカラーとブルーカラーが入れ替わるとも言われている。その過程では、人手不足もより進行することから、行政・企業の一体的かつ短期的・中期的・長期的な取り組みが必要である。

行政視察報告書

報告者：森田 賢児



日　　時：令和８年２月10日
場　　所：群馬県前橋市
視察事項：めぶく。プラットフォーム前橋について
出席者　：森田賢児　太田利実保　遠山将吾
　　湖東秀隆　関イチロー

・プラットフォームの位置付けは、明確に「地域人材の育成・定着」としている。

・プラットフォームは、産・学・官となっているものの、産は商工会議所のみ、大学が中心となっている。これだけでは手薄な印象を持ったが、実際のところは企業が直接的に大学や高校、学生と繋がっており、独自でセミナー等を開催しているため、企業がプラットフォームに入る必要性が乏しくなっている。

・前橋で、学ぶ・働く・生きるとテーマが３つに分かれ、大学の活性化や学生の定着、人材育成に取り組んでいる。確かに地域との心理的な関与は持たせられるものの、やはり東京へ出ていきやすい立地条件は転出超過の大きな要因である。

・県都まえばし創生プランにおけるKPIでは20～24歳の市外転出超過数436人(2023年)を120人(2027年)としているが、現状の数字についても住所変更をせずに転出している人の数はカウントされていないとのこと。

・もっとも、プラットフォームの領域として、市域より県域が望ましいと感じている

<考察>

人口を確保したい・定着させたい行政と、多様な価値観・選択肢から生き方を選択する若者、そして、どこへでもすぐに行ける社会インフラや都市機能の違い、需要と供給で考えてもこれらを全て合わせることは、やはり困難である。

若者の生活設計として市内か市外かの選択肢になった時点において、すでに難しいのが実態と考えられる。本来は、その前から、小学生ぐらいからの地域教育が重要である。1度は出て行ったとしても、地域を愛する気持ちがあれば帰って来てくれる。その素地も必要である。いずれにしても、若者の選択を強制することはできないため、当面は全方位的な取り組みを進める他ないと考える。

視察報告書　　創造浜松・国民民主党浜松　八田前東保

1　視察先：川崎市『川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業』
　　前橋市『めぶく。プラットフォーム前橋』

2　視察日：令和8年2月9日（月）～10日（火）

3　視察目的

近年の人手不足は全国的な課題であり、特に建設、医療・介護、運輸・物流など現場で働くエッセンシャルな分野で著しい。仕事はあるが人手がなくて廃業を余儀なくされることも珍しくなく、各企業・事業所は人手不足を補うため、合同セミナーの開催や大学や高校への働きかけを強めている。中には外国人材に頼らざるを得ないという業種もある。

各地方自治体においては、地元企業と連携し地元の若者に対しＰＲ施策を行なっているものの、若者の首都圏への流出は相変わらずであり、自治体ができることには限界があるというのが実態である。

浜松市は製造業を中心とした工業都市であり、世界に名だたる企業が多いが、そこにぶら下がる中小零細企業は３万社を超える。川崎市は同様に臨海工業地帯を有しており、働く場としての魅力を再定義し若者に選ばれる地域づくりを進めている。その取り組みを調査し本市施策への活用可能性を見出したい。

また、前橋市は、行政、商工会議所、大学等が連携し、地域人材の育成・定着を目指すプラットフォームをつくり、産業界・教育界・行政が地域の課題を共有している。人材育成・定着にとどまらず、人口減少問題といった大きな課題解決の一環を成している状況を調査することとする。

4　視察内容

（1）川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業

（川崎市臨海部国際戦略本部臨海部企業連携担当：三原課長、布川係長）

・川崎臨海部は多くの工場や発電所が立地している産業拠点であるが、企業対企業の会社がほとんで、市民への馴染みが薄い。そのため、次代の川崎を担う若い世代の川崎臨海部への認知度向上を目指し、工業課を有する唯一の市立高校である川崎総合科学高等学校において、学年集会・授業時間を活用し、川崎臨海部への深い理解度、さらには、シビックプライドの情勢につなげることを目的としている。

・プログラムの概要は、１年生には市職員による臨海部のＰＲと立地企業の紹介、企業がブース出店しての説明、見学・体験ツアー、２年生になると希望者が興味のある企業でインターンを行う。

・令和７年度の参加企業は 21 社、令和３年の事業開始時の 11 社から徐々に参加企業数は

増えている。参加企業は旭化成、味の素、ＪＥＲＡ火力発電所、東京電力など錚々たる顔ぶれである。ちなみに臨海部に存在する企業は2,800社、71,000人が働く。

・担当者曰く、この事業は当初、高校からの依頼に基づいて企画したという。だが、当時の教員が異動してしまったことや、工業高校とはいえ進学率が高まっていることなどから、高校生たちにどれほど臨海部の魅力が伝わっているかは数字としては表れていない。

・ＫＰＩに臨海部への就職数はカウントしていないが、臨海部への就職は年間数人にとどまっている。事業の改善を図る努力を毎年行っているものの、東京に近接し、臨海部に行くよりも東京へのアクセスが良いこと（臨海部へは鉄道アクセスがない）は大きな課題である。また、若者の傾向として、東京への就職がステータスであるという根本的な考え方を変えることはなかなか困難なことである。

（２）めぶく。プラットフォーム前橋

（前橋市未来創造部政策推進課スマートシティ推進係：三吉係長、関口主任）

・地方自治体の共通課題である人口減少の中で、前橋市も若者の地元就学・就職、創業・事業承継、雇用の確保など、地域の将来を支える人材をどのように育成し、定着させていくかは喫緊の課題。このプラットフォームは、地域人材の育成・定着をテーマに、産業界・教育界・行政が、地域の課題を共有し、各々の役割や立場を超えてお互いの強みや経営資源を持ち寄りながら課題解決に取り組むことを目的としている。

・プラットフォームの構成団体は、商工会議所、市内の５大学、県内の２５を超える専門学校連合会及び市である。取り組みの方向性は、大学の活性化・魅力向上により「前橋で学ぶ」、市内企業への就職促進・定着により「前橋で働く」、シニア人材を含めリカレント教育などの人材育成により「前橋で生きる」をコンセプトとしている。

・2018年度に発足し、2019年度から23年度までの中長期計画を策定、取り組みを進めてきたがコロナ禍により計画が頓挫してしまった。23年度以降は、ビジネススクール、合同ＦＤ/ＳＤ研修、共同公開講座の三本柱で取り組みを始めることとした。

・ビジネススクールは次世代の経営層の育成を目指し、複眼的かつ複層的な学びのリカレントスクールで、企業人仲間のネットワーク構築も狙いの一つ。ＦＤ/ＳＤ（大学の教員と職員）研修は大学教育の質向上や運営の資質向上を目指すもの。共同公開講座はプラットフォームに参加する大学の講師による中高生向けの講座で、市内大学進学のきっかけづくりが目的。

・その他、県の奨学金返還支援制度のＰＲ、合同進学相談会・セミナー、高校生への体験型企業説明会なども実施しているとのことであった。

５　視察を終えた感想、意見

・人材育成・定着に向けては、小中学生を対象とした職業体験、高校生への職場見学、大学生へのインターンシップ情報の提供、中小企業の採用活動支援、首都圏大学生と市内企業のマッチング、女性を対象としたセミナー等々、浜松市においても市内企業への就職を促す施

策は雇用労政部門において様々な形で行われている。
・今回視察した川崎市は臨海部というエリアに限定してのもの、前橋市は人材育成・定着をテーマにしたプラットフォームを組織しているというもので、直接的な就職、雇用施策ではない。川崎市は、東京に近接し、若者の地元就職離れとは無縁であると思っていたが、実際は東京への就職が多く地元就職が課題となっていることが分かり意外であった。前橋市は地方中核都市であり、若者の首都圏流出が本市と同様に課題となっている。
・川崎市の事業は臨海部の魅力を若者に伝えること、前橋市は地域人材の育成・定着を目指すもので、ＫＰＩとして地元就職率などを示すものはない。それぞれの産業部門では別途本市同様に施策を実施しているものと思われるが、今回視察した事業は地元への定着に向けた間接的な事業であり、評価を示す具体のものはなかった。
・職業選択の自由、住むところも自由であって、地元への定着を強制できるものでは決してない中で、地方自治体の施策の困難さを垣間見ることができた。しかし、両事業とも地道な事業であり若者の心に地域の魅力や地域で働くことの大切さを伝えるものとして重要な役割を担っているものであると思う。川崎臨海部の例を本市に置き換えれば、例えば都田テクノなどこれまで開発してきた工業団地のエリアごとにＰＲしていくことも可能であろう。前橋市のプラットフォームは大学を中心にしたもので、本市においても市内大学との連携事業を進めており、その発展形としてのプラットフォームづくりも一考である。
・人手不足が著しい建設業、医療・介護、運輸、一次産業等、現場で働くエッセンシャルな人材がいかに地元に定着してもらうかは大きな課題であり、地方自治体の努力だけでは限界があるのかもしれない。ホワイトカラーだけでは社会は回っていかない。東京一極集中が続けば地方は衰退し国の持続も危うい。国の施策、将来ビジョンを明確に示し、子供を産み育てることの喜びや地域で地道に働けば不安なく暮らしていくことができる社会へと転換していくことの重要さを改めて感じた視察であった。

会派視察 報告

創造浜松・国民民主党浜松：関 イチロー

日　程：令和８年 ２月 ９日(月) ～ 10日(火)

【第１日目】

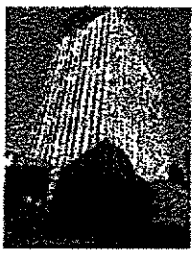
視 察 先：川崎市役所

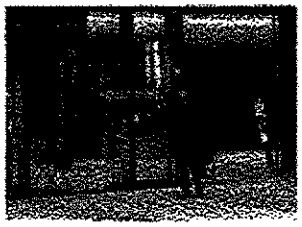
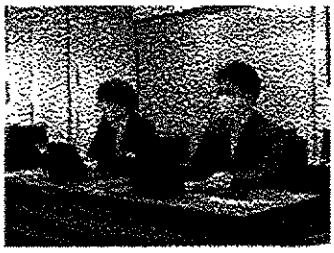
視察項目：川崎臨海部ＰＲ推進事業

「川崎臨海部しごとスタイルプログラム」について

説 明 者：三原 宜輝(よしてる) 臨海部国際戦略本部 事業推進部 臨海部企業連携担当課長

布川 慎哉 担当係長



令和５年６月発破工：地下２階、地上25階、高さ：111.62m、屋上庭園、回遊デッキあり　　左：三原 担当課長

いただいた資料には、『川崎臨海部ＰＲ事業』とある。

その背景として

① 企業から活動拠点として選ばれ続けるとともに、市民から誇りに思われるエリアであることが重要

② その為に、臨海部の強みや特徴を捉えたエリア像を広く浸透させ、認知度・理解度の向上を図る必要がある。

解決したい課題として

① 臨海部企業と市民の接点が少なく、エリア像や企業活動が知られていない。

② 市民が臨海部に抱くイメージの転換が必要。

そして、事業の目的としては

① 市民生活を支えている(税収を念頭に置いているようだ)コンビナートを形

成する主な企業との交流を通じて、若い世代の認知度向上を図る。

② 工業科を有する市立川崎総合科学高等学校において、学年集会・授業時間を通じ、川崎臨海部の深い理解度、更には、シビックプライドの醸成につなげる。

そのマッチングを、川崎市臨海国際戦略本部と川崎市教育委員会が務めるとしている。この事業は、学校側からの依頼で始まったとのこと、予算額は200万円である。

川崎市の発展は

① 企業が事業活動を行って、産業集積する

② 雇用が生まれる

③ そこに居住し、生活をする

④ 移動に必要な交通手段ができ、商店ができる

そのサイクルで川崎市は発展をしてきたとしている。

そして「『企業による事業活動』と『人が住むこと』の2点が維持・持続することで固定資産税、法人税・個人市民税などの税収が生まれ、道路、教育、福祉、文化、スポーツなどの財源になる。」と記されている。正論ではあるが、事業説明資料にここまでストレートに書いてあるのは初見である

この市立川崎総合科学高等学校でのプログラムの流れは

① 1年生向けオリエンテーション(9月実施)

市職員が臨海部のPRと立地企業の紹介

② 1年生向けブース出展プログラム(10月実施)

企業が高校にて生徒へ説明

③ 1年生向け見学・体験ツアー(12月実施)

生徒が各社へ訪問

④ 2年生インターン(夏休み期間中の実施)

1年次のプログラムを経た生徒のうち希望者が企業活動に参加

令和3年度に11社で開始し、3年間の試行を経て令和6年度に本格実施を行い、その後11社、16社、19社、21社と推移している。(この地域には約2,800社がある)高卒で、数人採用されたと聞いているとのことであった。市川担当課長が一人で行っているとのことであった。

川崎市は、政令市中最も面積(142.96㎢)が少なく、細長い市域であり、エリ

アによって臨海工業地帯、繁華街、超高層マンション街、東京郊外の新興住宅街、多摩丘陵などと多様な面を併せ持つ。東京都へ通勤通学する15歳以上の割合は42.3%(2020年)であり、“川崎都民”が多く、東京のベッドタウンとしての側面が強く、同県の横浜市よりも東京との結びつきが強い。
川崎区の人口密度は5,900人/㎢と極端に少ない。(他の6区のうち、5区は10万人以上、1区は8万人弱)

令和5年ＪＦＥスチールは、東日本製鉄の高炉などを休止した。この土地は、臨海部約2,800haのうちの約400haを占める。この大規模な土地の利用転換として、2028年度に海外から水素を受け入れ、貯蔵し、供給する拠点の開発を進める「先導エリア」で一部土地利用の開始を目指している。これをきっかけに産業を高度化し、国際競争力ある産業拠点にして行こうとしている。

財政力指数は1.02(2022年度)と良好である。

地道な事業活動は必要で、少しずつ成果も出始めているが、川崎総合科学高等学校が対象で、実施の背景や課題にある市民への波及が弱いように感じた。交通のアクセスも限られており、朝夕の渋滞などにより、都心への便の方が数段良好なこともあり、川崎市にとってこのエリアは重要なファクトでありながら、また今後の発展に大きな可能性を見出そうとしている中で、市民の関心を集めることの難しさ、隔靴掻痒感を感じた。

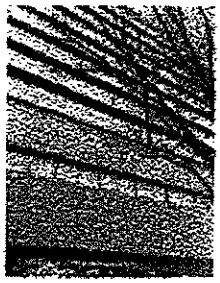
【２日目】

視 察 先： **前橋市役所**

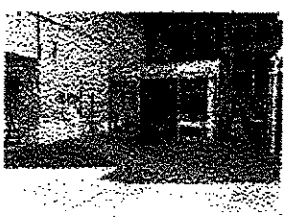
視察項目： **めぶく。プラットフォーム前橋について**

説 明 者： **前橋市 未来創造部 政策推進課 スマート推進係**

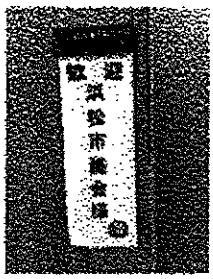
三吉 希 係長、関口 真望(まみ) 主任



前橋市役所



議会棟





背景：前橋市の人口は現在約33万人であるが、2060年には約23.5万人まで減少し、高齢化率は40%まで上昇すると国の推計は見込んでいる。
地域の将来を支える人材をどの様に育成し定着させていくかは、産業・教育界、行政が共通して抱える喫緊の課題である。

目的：このプラットホームで、「地域人材の育成・定着」をテーマに地域課題を共有し、それぞれの役割や立場を超え、お互いの強みや経営資源を持ち寄りながら課題解決に取り組むとしている。

前橋市には6大学(専門学校は25校)がある。

連携体制・会議体制として、商工会議所、群馬大学、県立県民健康科学大学、市立前橋工科大学、群馬医療福祉大学(私)、共愛学園前橋国際大学・短期大学部(私)、県専修学校各種学校連合会前橋支部、前橋市で構成された協議会(総会)が年1回開催されている。オブザーバーとして、群馬県と厚生労働省群馬労働局が加盟している。その下に、共同事務局会議があり年4回の開催、産学官の事務局が年度計画の実施等に向けての協議をしている。更に、個別事業(例えば、めぶくビジネススクール(MBS))の実施に向けた担当者会議が適宜行われている。

今までの経過は、

2018年：「めぶく。プラットホーム前橋」発足。

2020年：「実行」に向けた取組方針の確認。

2024年：中長期計画が終了し、今後はビジネススクール、合同大学教員・職員の教育・大学運営の向上研修プログラム、共同公開講座の3本柱で取組むことを確認

2025年：第10回協議会 → 令和6年度の報告、新年度事業計画承認
奨学金返還支援制度説明会及び学生・企業向けアンケートの実施承認

テーマとして

① 前橋で学ぶ【大学活性化】
- 大学の活性化、魅力向上
- 高等教育基幹への進学促進

② 前橋で働く【学生定着・ＵＩＪ】
- 市内企業への就職促進

・人材の定着

③ 前橋で生きる【人材育成】

・人材の育成

で構成されている。

・ めぶくビジネススクール：次・次々世代の経営層（県内従事者、30～50代）の育成を目指し、リーダーにとって、経営にとって複視眼かつ複層的な学びを提供するリカレントスクールであり、知識だけでなく企業人仲間のネットワークを得る機会の創出も目指している。プログラムは4カ月間、定員は15人。R3年度（プレ）：2日講義、10人参加。R4年度：講義日数8日間（次年度以降は同様）、15人、R5年度：13人、R6年度：10人、R7年度：9人。

講師は大学教授である。（大学教授だけ？）

・ 共同公開講座：参画大学等の講師がナビゲートする市内中高生向けの大学講座で、無料体験することで、将来の選択肢を考え、市内大学等を進路に考えるきっかけとする。R3年度：11講座、（未集計）。R4年度：11講座、2,712回再生。R5年度：10講座、5,206回再生。R6年度：11講座、4,416講座、R7年度：未実施、学生による大学紹介動画の作成、YouTube、TikTokでの公開を検討しているが、視察時は未実施。

令和7年度80万円の一般財源による運営・事業費である。「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の充当（1/2）、地方交付充当（4割）、実質は24万円であり、協定により産学官で案分。

背景・目的については、まったく指摘の通りであるが、特に前橋市の人口減少数には驚きが大きい。それでいて体制や経過については、その逼迫さの割には疑問が残る。また、それなりにメニューはあるが、通底するところが薄く、成果指標も心もとない。視察当初の目論見とは乖離した感は否めない。共同公開講座には興味を感じたが・・・

以上

視察報告書

創造浜松・国民民主党浜松

湖東秀隆

川崎市「川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業」について

本会派は、神奈川県川崎市が実施する「川崎臨海部 PR 推進事業『川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業』」について行政視察を行った。本事業は、川崎臨海部の持続的発展に向け、地域企業の魅力を若い世代へ伝え、地元就労の促進とシビックプライドの醸成を図ることを目的とする取組である。

川崎市最大の産業拠点である川崎臨海部は、これまで日本の高度経済成長を支え、市民生活を下支えしてきたコンビナート群を有するエリアである。現在はカーボンニュートラルコンビナートの実現や大規模な土地利用転換など、いわば「100 年に一度」ともいえる大変革期を迎えている。こうした中、企業から選ばれ続ける拠点であると同時に、市民から誇りに思われる地域であることが、今後の持続的発展の鍵であると位置付けられている。

しかしながら、臨海部企業と市民との接点は必ずしも多くなく、エリア像や企業活動が十分に理解されていないという課題がある。また、工業地帯に対する固定的イメージの転換も求められている。そこで本事業では、次代を担う若い世代、とりわけ工業系学科を有する市立高校の生徒を対象に、体系的なキャリア教育プログラムを展開している。

対象校は、市内唯一の工業系市立高校である川崎市立川崎総合科学高等学校である。1 年生・2 年生を対象に、①2 年生インターンシップ、②1 年生向けオリエンテーション、③企業によるブース出展型プログラム、④企業見学・体験ツアーという段階的な流れで実施されている。

ブース出展型プログラムでは、企業が学校に出向き、各学科（情報工学科、総合電気科、電子機械科、建設工学科、デザイン科、科学科）の生徒約 230 名に対し、事業内容や技術、働き方を紹介する。さらに、見学・体験ツアーでは約 190 名が実際に企業を訪問し、現場を体感する。加えて、希望者は夏季休業中にインターンシップへ参加し、実践的な企業活動に触れる機会を得る。市職員も臨海部の PR や立地企業紹介

を行い、行政・学校・企業が連携した重層的な仕組みとなっている点が特徴的であった。

本事業の本質は、単なる企業説明会ではなく、「地域の産業構造を学び、自らの将来と結び付けて考える教育プログラム」である点にある。企業側にとっては将来の人材確保につながり、生徒にとっては地元産業への理解と誇りの醸成につながる、双方にメリットのある取組であると評価できる。

一方で、首都圏に位置する川崎市においても、大学卒業後は東京都内企業へ就職する傾向が強く、人材確保は容易ではないとの説明があった。これは地方都市においては、なお一層深刻な課題である。

本市浜松市に置き換えれば、自動車・楽器・光技術等の世界的企業群を有しながらも、若年層の市外流出は続いている。地域産業の強みが、必ずしも若者の進路選択に直結していない現状がある。したがって、本市においても以下のような施策を検討すべきと考える。

最初に、工業高校や普通高校と地元企業を結ぶ体系的キャリア教育プログラムの構築である。単発の企業説明会ではなく、学年進行に応じた段階的プログラム(オリエンテーション、校内ブース、企業見学、インターン)を制度化することが重要である。

次に、「産業のまち浜松」というブランドの再定義と発信である。カーボンニュートラルや次世代技術への取組を可視化し、若者が将来性を感じられるストーリーを示す必要がある。

第三に、行政が積極的にコーディネーター機能を担うことである。学校任せ、企業任せにせず、市が産業政策と教育政策を横断的に結びつける体制整備が求められる。

今回の視察を通じ、地域産業の PR は単なる広報施策ではなく、「人材政策」であり「都市の将来戦略」であることを強く認識した。本市においても、地域産業への理解と誇りを育む取組を強化し、若者が地元で働き、暮らし続けたいと思える環境整備を進めるべきである。今後の政策提言に活かしていきたい。

前橋市「めぶく。プラットフォーム前橋 について」

人口減少・少子高齢化が進行する中、地方都市における若者の三大都市圏への流出は深刻な課題となっている。進学や就職を契機に都市部へ転出した若者の多くは、その後も当該地域に居住を続ける傾向が強く、地域産業の担い手不足、事業承継問題、地域活力の低下へと連鎖している。本市・浜松市においても同様の傾向が見られ、将来にわたり持続可能な都市経営を行うためには、「地域人材の育成・定着」を軸とした戦略的な取組が不可欠である。こうした問題意識のもと、産業界・教育界・行政が連携し人材循環の仕組みづくりを進めている前橋市の取組を視察した。

前橋市では、国の将来推計において 2060 年に人口約 23.5 万人、高齢化率 40%に達する見込みとされている。人口減少の進行は地域経済の縮小のみならず、地域コミュニティの維持や都市機能の持続にも影響を及ぼす。こうした危機感のもと、「地域人材の育成・定着」を共通目標に掲げ、産業界・教育界・行政が垣根を越えて連携する枠組みとして構築されたのが「めぶく。プラットフォーム前橋」である。本プラットフォームは、単なる就職支援施策ではなく、地域課題を共有し、各主体が持つ経営資源や知見を持ち寄り、継続的に課題解決へ取り組む共創型の仕組みである点に特徴がある。

同プラットフォームでは、地域企業と教育機関との接点創出、キャリア教育の充実、若者と地元企業とのマッチング機会の拡充等を通じて、学びと産業を結び付ける取組が行われている。また、創業支援や事業承継の視点も包含し、地域経済の循環を意識した包括的な構造づくりが進められている。
特筆すべきは、行政主導型ではなく、各主体が対等な立場で参画し、継続的に議論・実践を重ねる「プラットフォーム型」の運営である。単年度事業に終始せず、長期的視点で人材育成を捉えている点は、本市にとって大いに参考となるものであった。

本市は製造業を中心とする産業集積都市であり、多様な企業群や高等教育機関を有する強みがある。しかしながら、若者の都市部志向や中小企業の人材確保難、事業承継問題など、構造的課題は顕在化している。前橋市の取組を踏まえ、本市においても以下の方向性を検討すべきである。

先ずは、産業界・教育界・行政による常設の横断的協議体を構築し、「地域人材の育成・定着」に関する共通ビジョンと成果指標を明確化すること。

次に、中学生・高校生段階から地域産業への理解を深める体系的なキャリア教育を強化し、地元企業との接点を早期に創出すること。

第三に、UIJ ターン促進策を再構築し、都市部在住の本市出身者や関係人口との接続を強化すること。

第四に、創業支援と事業承継支援を一体的に捉え、若手人材の挑戦機会を地域内で循環させる仕組みを整備することである。

人口減少社会における都市間競争は、「企業誘致」や「補助制度」のみならず、「若者から選ばれる都市」であるかどうかが重要な指標となる。前橋市の「めぶく。プラットフォーム前橋」は、地域人材を核とした持続可能な都市経営の一つのモデルである。本市においても、部局横断的かつ官民共創型の仕組みへと転換を図り、地域人材の育成・定着を戦略的に推進する必要がある。本視察で得た知見を今後の政策立案に活かし、持続可能な浜松市の実現に資することを提言する。

創造浜松・国民民主党浜松 会派視察報告書

2026年2月9日(月)～10日(火)　川崎市・前橋市

1　川崎市　「川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業について」

2　前橋市　「めぶく。プラットフォーム前橋について」



川崎市役所から

創造浜松・国民民主党浜松　遠山将吾（３期）

1．川崎市



視察日時　2026年2月9日(月) 13時30分～15時00分

視察場所　川崎市役所

視察目的　川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業について

説 明 者　臨海部国際戦略本部　事業推進部　臨海部企業連携担当課長　三原 宣輝 氏

同係長　布川 慎哉 氏

(1) 視察目的

川崎市臨海部に集積する産業の価値や役割を、次世代を担う若者に伝え、人材育成・定着につなげる取組である「川崎臨海部しごとスタイルプログラム事業（以下、しごスタ）」について、その事業背景、具体的な実施手法、継続性、成果等を把握し、人口減少・若者流出という課題を抱える浜松市における人材育成・キャリア教育施策への示唆を得ることを目的として視察を行った。

(2) 視察概要

川崎市臨海部は、日本有数の工業集積地である一方、BtoB産業が中心であるため、市民、とりわけ若年層にとっては「身近に感じにくい産業エリア」となっているという課題を抱えている。

本事業は、そうした課題を背景に、川崎市立総合科学高校の生徒を主な対象として、臨海部立地企業を「就職先として紹介する」のではなく、「働く現場や人を知ってもらう」ことを主眼に企画されたものである。

特徴的なのは、単発の企業見学に留まらず、

- 市職員による事前オリエンテーション
- 企業による学校内ブース出展型説明
- 臨海部企業の見学・体験ツアー
- 感想や気づきのフィードバック

といった一連の流れを、学校・企業・行政が連携しながら年間を通して実施している点であ

る。

現在は事業開始から５年目を迎え、当初の試行期間を経て本格実施段階に移行しており、参加企業数も年々増加している。

また、若手社員を前面に出した説明や、多様な職種・キャリアパスの提示など、生徒との心理的距離を縮める工夫も随所に見られた。

(3) 考察・所感

本事業で特に印象的であったのは、「雇用対策」や「進路誘導」を前面に出さず、シビックプライドの醸成と産業理解の深化を軸に据えている点である。

川崎市では、市制 100 周年という節目を背景に、「自分のまちに雇用があり、その産業が税収や都市機能を支えている」という構造を若者に伝えることを重視しており、これは単なるキャリア教育を超えた都市政策的視点といえる。

また、臨海部がカーボンニュートラル、水素エネルギーなどの分野で大きな転換期を迎える中、将来を担う人材への早期アプローチを行っている点は、産業政策と人材政策を一体で捉える好事例であると感じた。

一方で、特定の高校に限定した実施であることや、教員の異動による熟量の差、事務局の人的負担の大きさなど、持続性に関する課題も率直に共有された。

しかし、それらを踏まえつつも「規模拡大よりも質の維持」を選択している姿勢は、行政事業としての現実的な判断であり、評価できる点である。

浜松市においても、製造業をはじめとする基幹産業が「身近に見えにくい存在」になりつつある。

高校段階から、就職を前提としない産業理解・都市理解の取組を積み重ねることが、結果として地元回帰や人材定着につながるという視点は、今後の施策検討において大いに参考になると感じた。

2、前橋市



視察日時　2026年2月10日(火) 10時00分～11時30分

視察場所　前橋市役所

視察目的　めぶく。プラットフォーム前橋について

説 明 者　未来創造部政策推進課　関口 氏

スマートシティ推進部　三吉 氏

'1) 視察目的

前橋市が推進する産学官連携基盤「めぶく。プラットフォーム前橋」について、地域人材の育成・定着を目的とした組織設計、事業内容、運営体制、課題認識を把握し、浜松市における産学官連携のあり方や人材政策への示唆を得ることを目的として視察を行った。

(2) 視察概要

「めぶく。プラットフォーム前橋」は、2018年に設立された産学官連携組織であり、前橋市内の大学・専門学校、産業界、行政が参画している。

背景には、2060年には人口約23.5万人、高齢化率40%に達するという強い人口減少危機感があり、「地域人材の育成・定着」を最重要課題として位置付けている。

主な取組としては、

- めぶく。ビジネススクール（MBS）
- 共同公開講座・YouTube配信
- 奨学金返還支援制度の検討
- 全世代型キャリア教育の構想

などが挙げられる。

また、「めぶく。」という言葉自体が、民間主導で策定された前橋市のまちづくりビジョンに由来しており、行政施策と都市ブランディングが連動している点も特徴である。

(3) 考察・所感

本視察を通じて感じたのは、理想と現実の間で

プラットフォームとしての理念や方向性は明確である一方、産業界の主体的参画が十分とは言えず、個別企業と大学が直接連携するケースが多いという課題が率直に共有された。

また、「プラットフォームでやる必要がない事業は載せない」という考え方は、組織を維持するための事業化に陥らない、健全な姿勢であると感じた。

その結果として、派手さはないものの、市内全大学・教育機関へ一斉に情報発信できる基盤としての価値や、意思決定主体が異なる組織同士が「同じ場に集まり続けている」こと自体が、重要な成果となっている。

財政面では決して潤沢とは言えず、赤字を大学側が補填するなど厳しい運営状況も伺えたが、それでも解散せず継続している点に、地域全体としての危機意識の共有がうかがえた。

浜松市においても、大学・企業・行政がそれぞれ個別には優れた取組を行っている一方、それらを横断的につなぐ「場」のあり方は、改めて検討の余地がある。

前橋市の事例は、「万能な連携組織」を目指すのではなく、必要なときに機能する緩やかな基盤としての産学官連携の一つの現実解を示しており、浜松市の人材政策を考える上で多くの示唆を与えるものであった。

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 8 年 1 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

申請額	14,652円	氏名	湖東 秀隆

令和 8 年 2 月 5 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	14,652円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
6	多目的広場建設管理について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
7	慰霊碑の廃止について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					忠霊塔・慰霊碑の撤去
9	市道整備に関する事項	於呂～気賀～於呂	調査	32	1,184					北行政センター
15	農業施策に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
20	障がい者施策に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
23	農業施策に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
24	天竜区の活性化に関する事項	於呂～佐久間～於呂	調査	76	2,812					
26	高校生からの市への要望事項について	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					議会事務局
27	農地関係に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
29	道路関係に関する事項	於呂～元城～於呂	調査	36	1,332					
合計				396	14,652					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

(12)

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 8 年 1 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	8,436円

氏名	太田 利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 8 年 3 月 30 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	6,956円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	1,480円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
9	視察について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
13	品評会用お茶摘み支援について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
14	プレミアム商品券について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
16	部活動地域クラブ協議会傍聴	山東～中央区中央～山東	調査	44	1,628					
20	教職員（事務職員）の課題等調査	山東～三方原町～山東	調査	32	1,184					
28	教職員（養護教員）の課題等調査	山東～三方原町～山東	調査	32	1,184					
合計				228	8,436					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名 創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名 森田賢児 様

下記のとおり、政務活動のため、令和 8 年 2 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	7,104円	氏名	太田 利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 8 年 3 月 30 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	4,144円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	2,960円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
4	教職員（栄養教諭）の課題等調査	山東～三方原町～山東	調査	32	1,184					
6	政務活動費について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
13	市営墓地在り方検討会傍聴	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
18	天竜区特別委員会勉強会傍聴	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
27	会派組織運営について協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
合計				192	7,104					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 8 年 3 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	8,510円	氏　名	太田　利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 8 年 4 月 1 日　　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	7,030円	研修費		広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	1,480円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車 距離	私用車 金額	公共交通機関 金額	有料道路 金額	駐車場 金額	タクシー 金額	備考
13	視察について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
24	春野町自治会要望への対応聞き取り	山東～春野町宮川～山東	調査	40	1,480					
24	二俣歴史まちづくりについて聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
25	共助型交通について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
26	天竜川ダム再編事業について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
30	龍山特定地域づくり事業について聞き取り	山東～龍山町大嶺～山東	調査	30	1,110					
合　計				230	8,510					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

134

研　修　費

６，１４２円

令和7年度　政務活動費(費目別内訳)前期分　　研修費

月	日	摘　要	収入金額	支払金額	累計額	領収書No
5	27	市内及び近接地旅費(4月分)		✓ 1,480	1,480	1 ✓
6	18	市内及び近接地旅費(5月分)		✓ 1,480	2,960	2 ✓
7	15	市内及び近接地旅費(6月分)		✓ 3,182	6,142	3 ✓

研　修　費

１，４８０円

令和7年度　政務活動費(費目別内訳)後期分　　研修費

月	日	摘　　要	収入金額	支払金額	累計額	領収書No
10	15	市内及び近接地旅費(8月分)		／1,480	1,480	1

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名 浜松市議会創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名 森田賢児 様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 4 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	9,176円	氏名	太田 利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 5 月 27 日　会派名 浜松市議会創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	6,216円	研修費	1,480円	広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	1,480円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
7	指定管理者制度についての会派勉強会	山東～元城町～山東	研修	40	1,480					
14	意見書について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
17	水窪地域バスについて聞き取り	山東～水窪町奥領家～山東	調査	84	3,108					
23	春野学校統合について聞き取り	山東～春野町宮川～山東	調査	40	1,480					
23	佐久間高校存続について聞き取り	山東～中央区中央～山東	調査	44	1,628					教育委員会
合計				248	9,176					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 5 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	14,134円	氏名	太田 稔実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 6 月 18 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	11,174円	研修費	1,480円	広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	1,480円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
2	ジビエ普及について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
7	防災対策について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
14	阿蔵山開発について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
14	水窪地域バスについて聞き取り	山東～水窪町奥領家～山東	調査	84	3,108					
19	部活動地域移行勉強会	山東～元城町～山東	研修	40	1,480					
23	意見書について会派調整	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
26	都田中学校部活動等について課題聞き取り	山東～都田町～山東	調査	26	962					
28	光明幼稚園道路補修について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
30	給食の課題等について聞き取り	山東～三方原～山東	調査	32	1,184					
合計				382	14,134					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

140

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 6 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	9,324円	氏名	太田 利案保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 7 月 15 日　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児 [redacted]

申請額内訳	調査研究費	4,662円	研修費	3,182円	広報費		広聴費		要請・陳情費		会議費	1,480円

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
2	中期財政計画について会派勉強会	山東～元城町～山東	研修	40	1,480					
11	中山間地域総合整備事業について聞き取り	山東～中央区中央～山東	調査	42	1,554					
20	春野高校フォレストガイダンス視察	山東～春野町堀之内～山東	調査	30	1,110					
25	土砂崩れ現場視察	山東～春野町杉～山東	調査	54	1,998					
27	天竜林業リノベーションスクール傍聴	山東～東伊場～山東	研修	46	1,702					
30	視察について会派協議	山東～元城町～山東	会議	40	1,480					
合計				252	9,324					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

（様式1）市内・近接地等の旅費申請書兼旅費支払証明書

会派名　創造浜松・国民民主党浜松　　代表者名　森田賢児　様

下記のとおり、政務活動のため、令和 7 年 8 月分の市内・近接地等の旅費を申請します。

申請額	10,582円	氏　名	太田　利実保

会派の政務活動のための経費として、上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年 10 月 14 日　　会派名 創造浜松・国民民主党浜松　代表者名 森田賢児

[redacted]

申請額内訳	調査研究費	4,440円	研修費	1,480円	広報費		広聴費	4,662円	要請・陳情費		会議費	

日	活動内容	行程	支出項目	私用車		公共交通機関	有料道路	駐車場	タクシー	備考
				距離	金額	金額	金額	金額	金額	
18	山いき隊について会派勉強会	山東～元城町～山東	研修 ✓	40	1,480					
19	生活保護の状況について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
21	議会改革検討会議住民説明会傍聴	山東～水窪町奥領家～山東	広聴	86	3,182					
22	財源配分方式について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
22	議会改革検討会議住民説明会傍聴	山東～春野町宮川～山東	広聴	40	1,480					
28	生活保護の状況について聞き取り	山東～元城町～山東	調査	40	1,480					
合　計				286	10,582					

※私用車使用の場合、走行距離1キロメートルにつき37円を支給

142

広　報　費

１，７９２，９１６円

令和7年度　政務活動費（費目別内訳）前期分　　広報費

月	日	相手先	摘要	支払金額	累計額	領収書No
8	12	杉森印刷	創造だより印刷代	795,672	795,672	1
	12	浜松磐田信用金庫	創造だより印刷代振込手数料	220	795,892	2
	21	セイエンプランニング	創造浜松だよりポスティング代	73,645	869,537	3
	21	浜松磐田信用金庫	創造浜松だよりポスティング代振込手数料	220	869,757	4
	22	浜松和合郵便局	創造だより郵送代	68,352	938,109	5
	22	浜松富塚郵便局	創造だより郵送代	92,064	1,030,173	6
	22	浜松佐藤郵便局	創造だより郵送代	28,032	1,058,205	7
	22	浜松元目郵便局	創造だより郵送代	59,808	1,118,013	8
	22	浜松元目郵便局	創造だより郵送代	2,640	1,120,653	9
9	3	浜松中日サービスセンター	創造浜松だより折込代	441,533	1,562,186	10
	3	浜松磐田信用金庫	創造浜松だより折込代振込手数料	550	1,562,736	11
10	6	アズドアポスト	創造だよりポスティング代	229,960	1,792,696	12
	6	浜松磐田信用金庫	創造だよりポスティング代振込手数料	220	1,792,916	13

広　報　費

１，７２３，８４４円

令和7年度　政務活動費（費目別内訳）後期分　　広報費

月	日	相手先	摘要	支払金額	累計額	領収書No
1	8	杉森印刷	創造浜松だより印刷代	777,603	777,603	1
		浜松磐田信用金庫	創造浜松だより印刷代振込手数料	220	777,823	2
	16	浜松和合郵便局	創造浜松だより郵送代	67,872	845,695	3
		浜松富塚郵便局	創造浜松だより郵送代	91,872	937,567	4
		浜松佐藤郵便局	創造浜松だより郵送代	28,416	965,983	5
		浜松元目郵便局	創造浜松だより郵送代	63,244	1,029,227	6
	23	セイエンプランニング	創造浜松だよりポスティング代	73,645	1,102,872	7
		浜松磐田信用金庫	創造浜松だよりポスティング代振込手数	220	1,103,092	8
2	2	浜松中日サービスセンター	創造浜松だより折込代	339,959	1,443,051	9
		浜松磐田信用金庫	創造浜松だより折込代振込手数料	550	1,443,601	10
	3	アズドアポスト	創造浜松だよりポスティング代	280,023	1,723,624	11
		浜松磐田信用金庫	創造浜松だよりポスティング代振込手数	220	1,723,844	12

広報費

No. 1

《領収書等添付欄》

(1)

領収証

[redacted] 殿

金額	¥	7	1	5	6	7	2

但し 創造浜松(令和7年)広報紙作成

上記の金額正に領収しました

令和 7 年 8 月 12 日

[redacted]

税抜価格 [redacted]

消費税(10%) [redacted]

内訳

現金	
小切手	
約手	
相殺	
振込	㊞

杉森印刷株式会社

[redacted]

取扱者印

[redacted]

(1)
(2)

[redacted]

毎度ご利用いただきありがとうございます

浜松いわた信用金庫

お取扱日	預金口座 店番	預金種目	口座番号
07-08-12	1503	普ﾓ	1871

カード発行金融機関 店番 1503-[redacted]

お取引金額 ¥795,672*

お取引内容 お引出

お取引後残高

手数料 ¥220 ページ 番号

時刻 13:09 おつり

浜松磐田信用金庫
袋井支店
ｽｷﾞﾓﾘｲﾝｻﾂｻｸｶ様
当座 12854
ﾊﾏﾏﾂｼｷﾞｶｲｿｳｿﾞｳﾊﾏﾏﾂ様
053457-2515

印紙税非課税
付につき浜松西
税務署承認済

(2)

写

ございます

浜松いわた信用金庫

[redacted]

ｽｷﾞﾓﾘｲﾝｻﾂｻｸｶ様
当座 12854
ﾊﾏﾏﾂｼｷﾞｶｲｿｳｿﾞｳﾊﾏﾏﾂ様
053457-2515

印紙税非課税
付につき浜松西
税務署承認済

COPY

(2)

支払証明書

金 220 円

上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7年 8月 12日

浜松市議会創造浜松・国民民主創造浜松
会長 森田 [redacted]

事由・内容等

創造浜松だより印刷代振込

広報費

No. 1

《領収書等添付欄》 (1)

領収証

殿

金額	万	千	円
	7	9	5	6	7	2

200円

税抜価格 ¥723,338

消費税(10%) ¥72,334

上記金額に領収しました

令和 7 年 8 月 12 日

森田[redacted]株式会社

[redacted]

取扱者印

10309

ご注意

振替口座	ご加入者
L-0292L-0496	残高をお確かめください
E-0013M-11154	通帳番号が相違していますのでお確かめください
E-0393L-1591	お取引明細票を発行しています
その他	お手数ですが窓口までお問合せください

(1)
(2)

(2)

写

毎度ご利用いただきありがとうございます

浜松いわた信用金庫

お取扱日	取扱金庫・店番	機番	取扱通番
07-08-12	1503011ｷ-2871		

カード発行金融機関 店番	口座番号
1503-	[redacted]

万円券枚	五千円券枚	二千円券枚	千円券枚	お取引金額
				¥795,672*

お取引内容	お取引後残高
お引出	

手数料 ¥220	ページ	確員
時刻 13:09		おつり

浜松磐田信用金庫
於呂支店
ｽｷﾞﾓﾘｲﾝｻﾂｶｶﾞ様
当座 12854
ﾊﾏﾏﾂｼｷﾞｶｲｿｳｿﾞｳﾊﾏﾏﾂ様
053457-2515

印紙税申告納付につき浜松西税務署承認済

COPY

支払証明書

金 220 円

上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7年 8月 12日

浜松市議会創造浜松・国民[redacted]

会長 森田[redacted]

事由・内容等

創造浜松だより印刷代振込

納　品　書

〒 430-0946

浜松市中央区元城町103-2

創造浜松・国民民主党浜松　　様

杉森印刷株式会社

本社・工場　〒434-0015 浜松市浜名区於呂2443－5
TEL (053)588－7711㈹・FAX (053)588-7795
浜松中央営業所　〒433-8122 浜松市中央区上島5丁目3－7
TEL (053)471－8899・FAX (053)588-7795
磐田営業所　〒438-0086 磐田市見付5834－1
TEL (0538)36－0577・FAX (053)588-7795

2026 年 8 月 7 日　　03316-00　　1 / 1

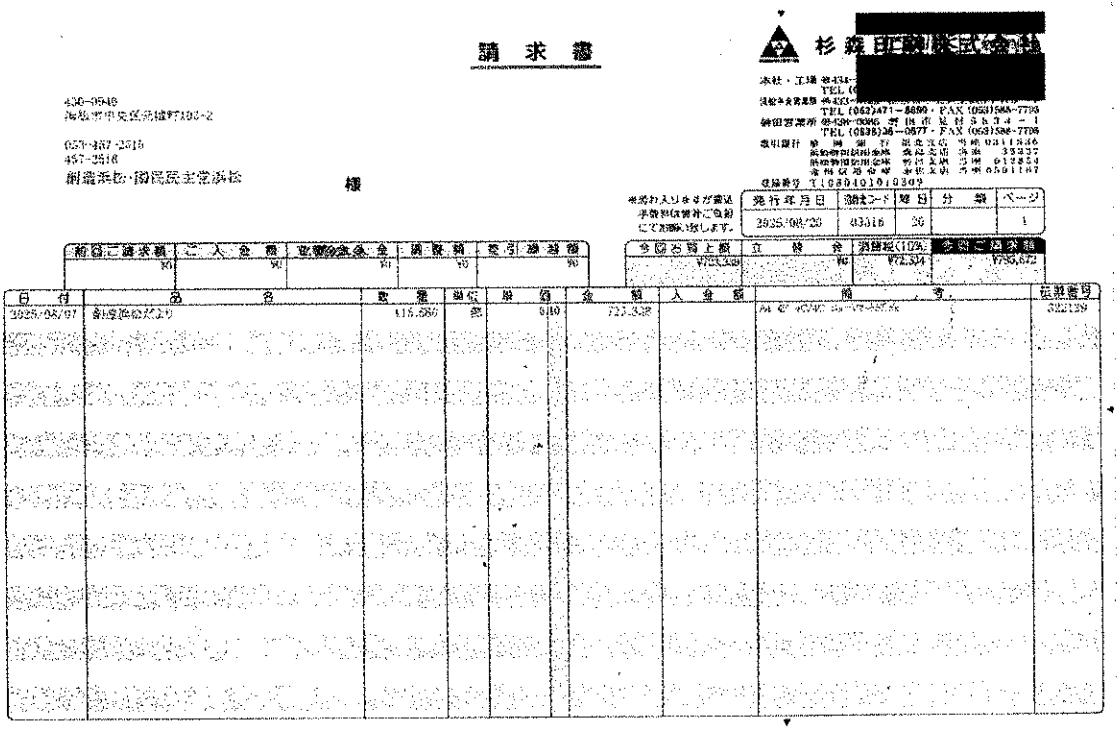
消費税及び、はがき・切手等の立替金は請求書にて一括請求させて頂きます。

品名	数量	単位	単価	金額	備考
創造浜松だより	118,580	部	6.10	723,338	A4 4P 4C/4C ニューマット57.5k

この用紙は、植林木パルプ等を主原料とした環境用紙です。

消費税	
合計	723,338

cE2306549-2



請　求　書

杉[redacted]

様

発行年月日	締切コード	頁	分類	ページ
2025/08/28	43316	26		1

前回ご請求額	ご入金額	繰越金金額	調整額	差引繰越額
¥0	¥0	¥0	¥0	¥0

今回お買上額	工賃	消費税(10%)	今回ご請求額
¥725,338	¥0	¥72,334	¥798,672

日付	品名	数量	単位	単価	金額	入金額	摘要	伝票番号
2025/08/07	鋼板(熱処理込み)	615.580	㎏	940	721,338		[redacted]	0021239